

経 済 港 湾 委 員 会 記 録 (No.15)

1 日 時 令和5年12月14日(木)
午前10時00分 開会
午後 0時04分 閉会

2 場 所 第3委員会室

3 出席委員(8人)

委 員 長	吉 田 幸 正	副 委 員 長	渡 辺 修 一
委 員	香 月 耕 治	委 員	渡 辺 徹
委 員	世 良 俊 明	委 員	奥 村 直 樹
委 員	高 橋 都	委 員	本 田 一 郎

4 欠席委員(1人)

委 員 田 中 元

5 出席説明員

産業経済局長	池 永 紳 也	地域経済振興部長	森 永 康 裕
観 光 課 長	酒 井 俊 哉	観光振興担当課長	大 前 亜 弥
夏まつり担当課長	中 山 聡	門司港レトロ課長	大 浦 太九馬
港湾空港局長	佐 溝 圭太郎	総 務 部 長	天 本 克 己
総 務 課 長	奥 村 和 美	港湾工事担当部長	今 吉 淳 一
処分場担当部長	檜木野 裕	整 備 課 長	政 徳 克 志
処分場担当課長	堤 雄 治	エネルギー産業拠点化推進室長	林 秀 樹
エネルギー産業拠点化推進課長	白 井 伸 弥	公営競技局長	中 村 彰 雄
公営競技局次長	横 山 久	総 務 課 長	本 多 利 明

外 関係職員

6 事務局職員

委員係長 伊藤大志 委員会担当係長 松永知子

7 付議事件及び会議結果

番号	付議事件	会議結果
1	行政視察について	11月15日から17日に行った行政視察について、委員間で意見交換を行った。
2	旧JR九州本社ビルの活用について	産業経済局から別添資料のとおり報告を受けた。
3	北九州港廃棄物海面処分場整備事業の公共事業再評価について	港湾空港局から別添資料のとおり報告を受けた。
4	響灘西地区廃棄物処分場の受入れ制限について	

8 会議の経過

○委員長（吉田幸正君） それでは、開会いたします。

本日は、所管事務の調査を行った後、産業経済局から1件、港湾空港局から2件報告を受けます。

初めに、所管事務の調査を行います。

11月15日から17日に行いました行政視察について、委員間で意見交換を行います。他都市の先進的な取組に関する所感や、本市で取り組むべき事例、また、取組に当たっての問題点や課題などについて意見交換を行っていただきたいと思えます。

本日の意見交換の内容は正副委員長で取りまとめの上、議長に提出する行政視察報告書や所管事務調査の委員会報告書の中で反映させていきたいと考えています。本市の行政施策への反映や執行部への提言など、今回の行政視察が実りあるものになるよう、活発な意見交換をお願いいたします。

なお、今回所管事務調査の一環として委員間で意見交換を行うものですので、執行部に対する質問については、事実確認など必要な範囲で行うようお願いいたします。

それでは、まず、公益財団法人JKAの競輪事業における地域貢献について及び一般財団法人BOAT RACE振興会のボートレースパーク化等による地域貢献の取組について意見交換を行います。

公益財団法人JKAでは、機械振興や公益事業振興を対象とした補助事業の実施による地域貢献の取組について、一般財団法人BOAT RACE振興会では、地域住民が気軽に利用で

きる活動の場を創出するボートレースパーク化による地域貢献の取組について調査をいたしました。意見、提案があれば発言をよろしくお願ひいたします。

それでは私からですが、まずJKAについては、ずっと北九州市の競輪事務所にいらっしゃった方がいて、その方が北九州の事業について御支援というか興味を持って取り組んでおられたというのが大変印象的でありました。それで、私自身としては、一委員としてですが、現在メディアドームの活性化とか活用を一生懸命考えているときに、屋根があつてあれだけ巨大というか、大規模な場所というのは日本にはあまりないというのが実情でありますので、どちらかという北九州市が先進的に活動していかなきゃいけないと思ひました。

それで、今ほかの地域での地域貢献事業についてお尋ねさせてもらった中で、課題として上がってきたのが目的外使用です。メディアドームでは貸し館事業を行っているわけではないので、スポーツイベント等については大変安価に借りることができるわけでありました。それ以外の他都市で行われているような事業については、大変超高額な貸し館使用料を払わなければならないということがよく分かりましたので、これを一つのテーマとして取り上げていきたいと思ひています。

また、BOAT RACE振興会について、ボートレースパーク化については、実は北九州市にあるボートレース若松のボルダリングやボーンレンドのことを大変参考にされているという説明がありました。これについては北九州市のほうが先行している場合があつて、他都市を引っ張っていくような内容だつたと思ひています。私があそこで印象的だつたのは、携帯電話で舟券、車券を買う人が増えてきて、結果として来場者のためのスペースがそれほど多く必要ではなくなってきたので、それで地域の方々に開放できる場所と売上げの好調による地域貢献の予算が比例して確保できているという話がありました。そういう意味では、地域ともウィン・ウィンの関係をつくっていけると実感をしています。

私はボートレースパーク化については、どういう事業をするかもう既に決まつていて、こういうものができますけどよろしくという話かと思つたら、地域の事情によって変えていいということでありましたので、どういうパークにするかというのは地元の見解も十分取り入れてもらえるという説明も受けました。特に若松でありますので、あのエリアにはこういう公園がふさわしいんじゃないかという意見を吸い上げて、提言、提案をさせていただければなと思ひました。ボートレース、JKAの感想について私から述べさせていただきました。

ほかに意見がございましたら、ぜひ活発によろしくお願ひします。世良委員。

○委員（世良俊明君） 補助金の関係でありますけども、補助金の申請から選定までの間の時間が短いということで、翌年の補助事業の最終採択が3月になって、事前に準備ができないということがありました。そのことを前提にした事業計画ができないので、改善ができないかという声が上がつたと思ひます。その状況が見えたので、そのことについては、今後の補助事業の拡大のため、あるいは北九州市で補助事業を実施していく際には、こうしたものが支障となる

可能性があるのですが、補助の申請期間とか制度の在り方など、補助が決定するまでの間の仕組みについて、少し検討してほしいということをこの結果として上げていきなり、要望をするなりしたほうがいいのかなどと思いました。皆さんもそういうお考えがあったようですので、そのことを上げたほうがいいのかなどと思っています。

○委員長（吉田幸正君） ありがとうございます。確かに来年度の事業をやろうとすると、もう既に終わっているということで、再来年度やる事業を多分7月くらいに採択に向けて準備をしていかなければならないという全体のスケジュール感だったと思うんですね。ですから、先方の改善と併せて情報の提供と共有は重要な課題かなと思います。世良委員。

○委員（世良俊明君） 決定時期は、年度末の3月と言われましたね。実際採択されなかった場合には、計画していても事業そのものが遂行できないという形になりそうだということで、ここはもう少し考えていただいたほうがいいのかなどという感じですね。

○委員長（吉田幸正君） ほかにございましたら。高橋委員。

○委員（高橋都君） 補助事業について、やはりどうしても対象が狭まるんじゃないかと思いました。学校などが対象の事業もあるんでしょうけど、まだまだ知られていないのではないかと思いましたが、それをもう少し広範に周知する方法はないのかと思いました。SNSで公開して、それが一つの宣伝にもつながるということだったんですが、それでは足りないのかなと思いますね。やはりそれだけの事業を行っているのであれば知らせていく必要があるし、先ほど言われた期限が短いということもそうなんですけど、次年度に繰り越すとか、多年度にわたって行うということは難しいのかなと思いました。その辺の事業の在り方についてはもう少し聞いてみたかったと思います。

○委員長（吉田幸正君） 渡辺徹委員。

○委員（渡辺徹君） 補助事業は、私もサラリーマン時代、養護施設とか老人ホームとかを建てる時に関わって、団体からの補助をいただきましたので、そういう場合は貢献しているということはよく存じ上げていたんですけど、世間的には本当にそういったプロの方しか分かっていないので、PRが不足していると思います。

ボートレースにしる競輪にしる、視察先にお伺いしたときに、すごいビルの中に入って、また、特にボートレースは自前でビルを建てて、今は大変イメージが変わってすばらしいと思います。公営競技局もそうですが、昔はイメージ的に時代劇でよくある賭場に行って元締が1人でもうかって、賭けた人はみんな苦勞するというような、何か大変極悪なイメージでした。現在、公営競技局は、環境整備を物すごく大事にされていて、社会貢献にかなり力を入れて、イメージを変えていただいたというところはすごく感じています。そしてまた、北九州市に収益を入れていただいているというところは我々としてもうれしく思います。今は携帯電話などで投票できるようになって、レース場の安全面は保たれているような感じですが、ただ、今両方の事業とも一番過渡期だと思うんですね。コロナも終わりました、今からどう対応していくか、

そのためにイメージアップという中でいろんな地域で社会貢献をやっている。無駄なお金を使っていると思うかもしれませんが、それは本当に大切なことだと思います。メディアドームは、雨風も防げて駐車場もあるからということで、うちの孫の幼稚園の運動会でも使用されてきました。そういった小さなイベントでもそこを全体使えるということで、父兄が大変集まりやすく、子供にとっても安全です。そういったことをもっとPRして行って、これだけ地域貢献もやった上に他都市から集めたお金で北九州市は潤っているんですよというところもPRしておいて、しっかりとイメージを変えていただくような努力も今から必要だと思います。ぜひ、今からの稼ぎと言ったら悪いんですけど、やっぱりいかに生き延びていくかというところをしっかりとやっていただきたい。やはり競輪事業もボートレースも今から売上げがどうなるのかという委員の方もいらっしゃいましたので、今は本当にいい状況ですが、お荷物にはならないように、しっかり気をつけて頑張っていたいただきたいと思いました。以上です。

○委員長（吉田幸正君） ありがとうございます。ほかにございましたら。渡辺修一委員。

○委員（渡辺修一君） 私も競輪に関しまして、補助事業が多岐にわたっているというところがすごく勉強になりました。世良委員が言われたように、申請の期間が短くて、なかなか申請につながっていない、また、申請しようと思ってもどうやっていいか分からないというところもあるので、しっかり周知等していかないといけないと勉強させていただきました。

また、ボートレースのパーク化については3つの課題ということで、意義、また、施設をどう活用するか、それと、ターゲットはどこなのかというところを勉強させていただきました。若松を中心に北九州市のよさが出るような、北九州市の若松のボートレースパーク化を進めなきゃいけないと感じさせていただきましたので、またしっかり頑張ってください。以上です。

○委員長（吉田幸正君） ありがとうございます。本田委員。

○委員（本田一郎君） J K Aに関しまして、競輪事業における地域貢献について様々な勉強をさせていただいたんですけども、その中でインバウンドの対応は行っておらず、多言語のパンフレットは設置しているという説明がありました。それで、ボートレース振興会に関しては、SNS等の活用をしているということでありましたけれども、やはりインバウンドの方に対してももっと情報発信を強化して、レジャーとしての対応も進めていただきたいと思いました。

また、現在女性レーサーが260人で、全体の平均年収が1,800万円ということで、女性はやや低いと。ただ、この前3,900万円の賞金がついたS Gレースで女性の方が優勝されたということでした。ボートレース振興会としては、スター選手が欲しいということでしたので、このボートレース等々は北九州市にとって大切な財源でありますので、そういった選手を発掘することも何か力を入れていただきたいなと思いました。以上です。

○委員長（吉田幸正君） ほかにございましたら。奥村委員。

○委員（奥村直樹君） J K Aの補助事業に関する感想としては、今まであまり私も知らなかったもので、かなり閉じられた対象なのかと思っていたんですけど、全然そうじゃなくて、かなり

幅広く採択される可能性があるんだなということを知りました。市内のいろいろなNPOとか対象になる人たちにはもっと知ってもらわなきゃいけないということと、先ほどから話が出ているように、申請期間が短いし、補助が出なかったときのリスクもあります。それを変えていく要望もするのと同時に、市内の事業者にも、こういう状況だけどうやってやったらいいよと行政がアドバイスをできるような仕組みがあったら、もっと北九州市に採択を増やしていいんじゃないかと思いました。継続性についても、毎年やるものを必ず取れるわけではないので、そういったこともアドバイスしないと、せっかく始めても来年補助が出ないから事業が続かなくなりましたというのもよくないと思うので、そういったところのうまい使い方を、行政が間に入ってしていただけたらいいんじゃないかと感じました。

それと、ボートレースについては、ボートレースに関係ない人にも出入りしてもらおうのが目的になっているとのことでしたが、逆に言えば未来のお客さんをそこで見つけていくという話もありました。子供たちにレースを見ながら色を当てさせるということもやっているとのことだったので、それはそれで面白いなと思うんですけど、当然その分早くからギャンブルに目覚めてしまうという懸念の声も当然あるとは思いますが。ただ子供のうちからそういったことを知っておくことも大切かなと思ったので、うまくほかのボートレース場の事例を聞きながら、よい取組はまねしていけたらいいのかなと思っています。

あと、将来のお客さんと言ったときに、今回初めて、ああなるほどと思ったのが、そういうボートレースのファンを増やすということだけではなくて、ボートレーサーを目指す子供を見つけるという話もあったので、ある意味キャリア教育にもなるんだなということ気づかせていただきました。ボートレース場の仕事というのもあるので、そういったところも子供たちに触れてもらうことも、新しい一つの触れ合いになるんじゃないかと思いました。以上です。

○委員長（吉田幸正君） ありがとうございます。公営競技局に1つ確認させてください。JKAの補助事業について、機械振興ということで、ものづくりの町の我々としては関連がある方も多く、あるいは大学の研究者個人に対しての補助もあり、あるいは保健福祉関連の車椅子に対しての補助など、一般の北九州市内の方が問合せをしようとした場合、それに対応する部署は公営競技局の中にはありますか。公営競技局総務課長。

○公営競技局総務課長 基本的に補助事業そのものの説明の担当課というのはございません。責任を持ってお答えできる内容、補助が出るか出ないかということがかかっていますので、それに対応できるかという点も難しいと思います。地域貢献室でPR等はしておりますけれども、補助採択、それから補助の要件等になりますと、JKA等の審査に係る問題になってきて、うかつなことは言いにくいというのがありますので、内容に関する点、審査に関する点等についてはお答えは難しいかなと感じております。以上です。

○委員長（吉田幸正君） ありがとうございます。

これらの局が並んでいることはあまりないのでお尋ねします。産業経済局の中に、ものづく

りの補助とか、あるいはものづくり支援とか、いろんな補助があるんですが、これを中小企業振興の立場で周知し、また、告知することがあります。

また、ボートレースは補助事業を直接やらずに、日本財団がその寄附や助成をやるんですが、民間からその問合せがあった場合は、港湾空港局の中に海事という意味で対応する部署がありますか。確認をさせてください。地域経済振興部長。

○地域経済振興部長 今、委員長御質問のいろんな団体の助成金の件ですけれども、J K Aに限らず、例えばソニー財団とか三菱財団とかいろんな助成事業がありまして、それこそ私どもは学術研究都市を所管しておりますけれども、そういったところで何か使える助成金はないかということは、私ども産業経済局とか、あとF A I Sの産学連携の部署で受けております。そういう意味では、J K Aの実績があるかどうかというのはちょっと今承知しておりませんが、そういったところで広くいろいろな助成金は御案内をさせていただいております。以上でございます。

○委員長（吉田幸正君） 港湾空港局総務課長。

○港湾空港局総務課長 お尋ねいただきました窓口につきましては、港湾空港局としては持ち合わせておりませんが、国の制度などはこちらでも必要に応じてお伝えしていきたいと考えております。以上でございます。

○委員長（吉田幸正君） ありがとうございます。ほかに御意見がありましたら。香月委員。

○委員（香月耕治君） 公営競技局ということで、イメージといいますか、しっかりと地域貢献をしようということが感じられたわけですけど、これもひとえに業績が順調に推移しているということが原因だと思っています。将来の業績をどうやって確保していくかということでは、子供たちから年長者まで対象とした地域貢献という事業はいい取組だと感じました。

小倉競輪は施設としての利用の仕方といいますか、一般の競輪場とはちょっと違う使い方が課題として残るんじゃないかなと。だから、全国の競輪というよりも、メディアドームをどうやって使うかということは、しっかりと考えていって、そしてまた収益もそうですけど、地域貢献としてはまだまだ工夫の余地があるなと考えています。

私は、ちょっと趣旨が違うかも分かりませんが、公営競技はギャンブルということと、ある意味中間的なグレーゾーンというか、さらに地域貢献を併せて行いながら収益をどうやって上げられるか、さらに工夫がいます。社会的に適合するような、スポーツ的な公営競技ということが日本でも少しずつ根づいてきたかなと感じました。以上です。

○委員長（吉田幸正君） ありがとうございます。

委員間意見交換ではありますが、いい事業をやってほしいなということも変わらずよろしくお願ひします。

それでは、ボートレースとJ K Aについては以上ですが、公営競技局と、中小企業振興という意味では産業経済局、海事という意味では港湾空港局、これは図らずも経済港湾委員会の所

管のところなんで、公営競技がこの町にあるということは全国を見てもそんなに多いわけでは
ありませんので、そのことが経済振興と港湾振興につながるようにいい連携をしてほしいとい
うことは、今回の視察で私自身もよく感じたことでもあります。多くの委員からもあったとお
り、ボートの収益と町の振興と併せて両輪になるように要望して、この件については終わりたい
と思います。よろしくをお願いします。

それでは、次に秋田県の秋田県洋上風力発電について意見交換を行います。

秋田県では洋上風力発電事業に関する事業内容のほか、関連産業の誘致や人材育成の取組に
ついて調査をいたしました。意見、提案等があれば発言をお願いいたします。世良委員。

○委員（世良俊明君） 幾つか感想等を述べたいと思いますが、まず、秋田洋上風力発電株式会
社での現地での説明と視察については非常に興味深いものだったと思っています。幾つかあり
ますが、まず1つは、20年間のF I Tの間だけで終わりますということで、モノパイル20本、
4.6メガワットについて、これでもう撤去して終わりですということで断言されていたので、こ
の産業としての広がりとは全く視野に入っていない事業だったと思います。

それから、風況の不安定さから発電量が10から15ぐらいまで開きがあるということで、ベー
スロード電源にはなり得ないと断言されていました。そういう意味で、こういう先行した洋上
風力発電の制約というのものもあるんだと思いますが、そういう状況がありました。

それから、材料についてもほとんど輸入に頼って実施したということでありました。単発で
先行して進められた事業である制約が、やっぱりここに端的に現れているなということを感じ
て持ちましたし、こういう事業だけでは多分今後の産業的な集積とか広がりを持つことの
ない事業ではないかなと思いました。

それから県庁では、促進区域、有望地域がこれまでも続いているので、これから関連産業の
育成もしていこうと。サプライチェーンもできるだけ整備をしていこうと。それから、人材育
成についても進めていこうということで、我々が現在視野に入れている方向と共通しているも
のが秋田県庁では見られたと思います。

ただ、秋田県の場合は、周辺では既存の関連産業の集積はそれほど大きくないということが
分かりました。また、人材育成についても、逆に北拓をお願いしているとか、あるいは北九州
市の海洋訓練を利用させていただいてありがたいとか、人材育成についてもこちらのほうに
来られていることもあるということで、むしろこちらのほうで日本の全国的な拠点としての貢献
ができる可能性もあるのかなと思いました。秋田県もこれから厳しいところだろうと。それか
らナセルについても、関連企業やメーカーを誘致するという問題意識はほとんど持っておられ
なかったということで、輸入に頼るしかないと考えておられるようでしたし、そういう意味で
は、北九州市の今後の方向性のほうが幅広く進んでいける可能性を持っているということだと
思いました。

ただ、秋田県のほうが平成25年度から着手ということなので、北九州市より先行したんでは

ないかという話がありましたけども、北九州市も実は平成23年から電源開発の実証実験をやっていると思いますし、その前の問題意識というのは、それよりさらに前だったと思いますので、うちのほうが早かったのではないかという気はしていますけれども、例えば港湾会計との問題とかを含めて、その辺の動機とか着手とか狙いとかというところについては、今後少し本市側でも整理をされておいたほうがいいかなと思いました。

一方、本市の課題というのは、やはり促進地域、有望地域が周辺に少ないということだと思います。向こうはもう続けて促進区域もありますので、頑張りますということで言われましたけど、北九州市ではなかなかまだまだ見えてきていないので、これはやはり強力で早急に進めていくという形で、市場化を進めていかなければいけないところに関しては、向こうのほうが大分あるなという、目の前にあるなということがありましたので、その辺については私たちの課題なのかなと思いました。

○委員長（吉田幸正君） ほかがございましたら。奥村委員。

○委員（奥村直樹君） 今もうたくさん意見が出て、そのとおりでなんですけども、あとそれ以外で言うと、非常に感じたのは、これは新しい技術なので、先行しているからこそ陳腐化が早いんだとか激しいんだなということです。SEP船なども今はサイズが違いますと。今使っているのをどうするんですかと言うと、もう使いようがないんだとか、モノパイルだったからこそ、今の新しいものにサイズアップできないとかという話もあったりで、そうすると、それに比べれば北九州市は新しいとは思いますが、さらにその新しい技術を見越しておかないと、見越すことは難しいんでしょうが、多分5年、10年たって振り返ると、今やっている計画がもう古いものになっていくということを目の当たりにしたなと思いました。だから、それをどう考えるか、これから議論していかなきゃいけないというところだと思います。

あと、期待していた観光化について、目の前で見えるというのも、やっぱり見た限りなかなか厳しいなというのを感じました。これは少し工夫が必要で、洋上から行かないと、そこで観光に寄与するのは非常に難しいんだろうなというのを感じたところであります。

○委員長（吉田幸正君） 本田委員。

○委員（本田一郎君） 雇用創出について、若年層の回帰と定着に寄与したという報告と、漁業、観光振興等への洋上風力発電施設の活用を行っているということと、景観だとか音の問題ということも私は質問したんですけども、そういったことも一切影響はないと。市民からの声で音の問題もないし、景観の問題もないということの回答を得ました。こういった部分も今から響灘で事業を進めていくに当たって大切なことだと思いますので、そういったことをやっていただければいいなと感じました。以上です。

○委員長（吉田幸正君） ありがとうございます。ほかございましたら。高橋委員。

○委員（高橋都君） 私も世良委員が言われたように、秋田県のほうが先行して始めたということもあるんでしょうけれども、規模的に思ったよりも全然小さかったと感じました。北九州は

これからつくるわけで、北九州市のほうが規模は大きいということもあるのかもしれないけれども、今後は北九州市も頑張ればかなりいろんな産業などにも関係してくるのかなというのは感じました。秋田県は今後浮体式を大きく広げていくということでしたけれども、北九州市は今回始めるわけで、これはどう生かせるのかなといったときに、秋田県と同じように、20年後に北九州市が実際にどうなるのかなということになると、やはり先のことも考えていかないといけないと思いました。

観光と先ほど言われましたけども、本当に遠いというか、かなり中心地から離れているということもあって、これを観光につなげるのは大変だろうなというのは感じましたので、北九州市もそれを目玉にするのであれば、そこはしっかりと考えていかないといけないということも感じました。

それと、秋田県では全てが海外製ということもあるかと思うんですけど、北九州市がそれを今後どう国内の事業者を巻き込んでいくのかということをしっかり考えていかないといけないなということを感じました。

あと、人材育成も、メンテナンスの面で北九州市はほかの地域にない訓練所とかあると思うんですけども、そういうのを生かして今後進めていけば、さらに発展するのかなというのを感じました。以上です。

○委員長（吉田幸正君） ありがとうございます。渡辺徹委員。

○委員（渡辺徹君） 私も皆さんが言うのと同じなんですけど、行ってみてこんなものなのかと思ったのは、20年後にはもうこれは終わりますので、平地にして返しますとか、何かせっかくお金をかけて行って、自分たちは損なく集めて、地域に対しての貢献がないようなビジネスで捉えていました。北九州市はその点皆さん優秀で、せっかくつくるんだから、観光も、地場産業も、そしてまた働き手もしっかり巻き込んで、北九州市の地域のためにということいろいろなお金をかけて動いていただいていますので、その辺のところはしっかり見定めてやっていただきたい。そうしないと、淡々と事業を進めて、その次のことが一つもないなというようなことがあったので。せっかくこれだけのお金をかけて、プロジェクトもすごい中で、物自体が今どんどん大型にもなっているような感じもありますので、皆さん方もその辺をうまい具合に国内需要につなげていけるように。せっかくお金をかけてやるんですから、企業だけが潤ってもしょうがないんで、その辺のところはぜひ頑張ってくださいなと思いましたので、ぜひお願いします。それだけです。

○委員長（吉田幸正君） ありがとうございます。ほかにございましたら。香月委員。

○委員（香月耕治君） 今いろいろ意見が出て同じようには感じましたが、これはある意味、反面教師にしないといけないと思っています。丸紅がもう20年後は完全に撤退しますと。これは国のエネルギー政策にも通じるころだと思っています。県であった説明は三菱商事が低価格で落としたということにもつながっているのかなと思っていますが、北九州市のすべきことは

やはり発電というか、洋上風力もありますけど、装置産業として、北九州市からこれを日本各地、それから、海外までに輸出できるような産業に育てていく必要があるなど、そのように反面教師として感じたところです。

私は国のエネルギー政策ということでは、しっかりと腰が据わった政策ではないなと感じています。これは北九州市がどうのこうのということではありませんが、再生エネルギーについてもソーラーに関しても、九電がせっかく発電した貴重な電力を受け入れないということが続いています。20年後、30年後に同じようなことをして、国が計画する再生エネルギーが20数%、本当に行くんだろうかと思っています。今物価が高騰していて、アメリカで計画していた世界最大の風力発電も停止になったと聞いていますが、北九州市のすべきことは、ものづくりの町ということで装置産業をいかに誘致していくか、北九州市の経済の一つの大きな力にするかということをお秋田県の洋上風力を見ながら感じたところです。以上です。

○委員長（吉田幸正君） ありがとうございます。ほかにございましたら。渡辺修一委員。

○委員（渡辺修一君） ほとんど皆さんが言われた内容ですけども、風力発電関係部品の企業の地元創出がすごく課題だなと感じました。雇用と、また観光をどう洋上風力でつなげていくかというところが大きいと思いましたし、観光は、秋田県も展望台の上から見るだけでは人は来ないだろうなと思いました。北九州市の陸上の風力発電はもう目の前から見れて、かなり迫力があって、行く価値があるなと感じたんですけども、委員長とも話をしたんですけど、洋上風力でいかに迫力を感じながら観光につなげていけるのかなと思いました。しっかりそこら辺もいろいろな取組を勉強して、北九州市で最高の風力発電ができるように生かしてまいります。以上です。

○委員長（吉田幸正君） ありがとうございます。全体ですけど、観光化が少し難しいんじゃないかという背景は、秋田駅から車で揺られて1時間半ぐらいかかって行ったところで、周りに何があるわけでもなく、展望台だけがあるというところで、ここに観光地として連れていかれたら、ちょっと満足度として低いなということでもあります。

ただ、北九州市の場合は小倉駅からそんなに遠い距離でもありませんし、エコタウンの産業集積みたいなことも含めて、やり方はあるんだろうなと思いますし、やはりストーリー性が大事だろうと思いました。私は、お願いして秋田県まで洋上風力を見に行っただけですけども、秋田駅に着いて、洋上風力の看板や、再生エネルギーに取り組んでいますというPRなども目にしていませんから、正直何かもったいないなと感じたところでもあります。北九州市は今からつくるに当たり、北九州市の環境に対する取組というのは世界的評価も高いと思いますので、それを我々議員もしっかりPRをする準備をしなきゃいかんなと思いました。

1つだけ確認させてください。秋田県庁でいろいろ説明があったんですけど、1つは、今から秋田県は洋上風力でつくった電力で水素をつくらせていきたいなと思いますということが結構熱く語られていましたが、これに関する北九州市の状況を教えてください。

それと、やっぱり風力発電の主たる部分は国産化すべきだろうと思います。それで、誰が言っても国策なのでなかなか難しいことだと思いますので、洋上風力をやりますという自治体が連携して声を上げられたらいいですよという話をしたところであります。何でそう思ったかという、ナセルが油漏れを起こして、その油が海上に落ちて、それで漁業に大変影響があると。その修理も即座にできればいいんですけど、原因の調査やヨーロッパから調達した部品ということで、対応として非常に困難なことがあったようでした。国産の部品で風力発電ができるように要請すべきだろうと思いましたので、何か全体の中で声を上げる機会があれば、我々議員もそうですし、行政からも国産についての声を上げてほしいと思います。

秋田県のほうが先進的であったわけでありますけども、我々が決して後れを取らないという確信も持てた場面もありました。水素のところだけ確認させてください。エネルギー産業拠点化推進課長。

○エネルギー産業拠点化推進課長 水素化自体は環境局が今取り組んでいることですが、響灘洋上風力発電の余剰電力を利用した水素については一時検討したことがありますので、その見解のみを御回答させていただきます。

響灘で想定される余剰電力量というのは1,000万キロワットアワーくらいで、本庁舎が使用する電力の約2.5倍程度の値です。ただ、これを水素化しようとする、200億円弱の設備投資が必要になってきます。そして、できた水素を売った場合に入ってくるお金が年間2億円程度、したがって初期投資の回収だけでも100年近くかかってしまうので、現状では事業採算が取れないと、そういった難しさがあります。以上です。

○委員長（吉田幸正君） 分かりました。ありがとうございます。秋田県が水素に関して検討するという話がありましたので、環境局とも勉強していきたいと思います。

いずれにしても、再生可能エネルギーで工場を誘致したいという強い思いで、また、新たにベースもつくられるという話もありましたので、そこもリンクしている話だろうと思いましたので、ぜひ我が町も頑張してほしいと思いますので、ほかに御意見がなければ、秋田県についてはこれで終わりたいと思います。

最後に、仙台市の仙台市交流人口ビジネス活性化戦略2024について意見交換を行います。仙台市では、インバウンドやMICEの強化、漫画、アニメのコンテンツの活用等による観光振興の取組について調査をしました。意見、提案等があれば委員間で意見交換をお願いいたします。奥村委員。

○委員（奥村直樹君） 3点ほどあって、1つはあの場で質問したので皆さんにも聞いていただいていると思うんですけど、東北絆まつりの話を聞いたときに、わっしょい百万夏まつりがぱっと頭の中に浮かんだわけです。それで、各開催地の満足度について質問したところ、6市で開催地を輪番制にしていって、開催地の経済効果が高く、それぞれの町が満足しているということでした。わっしょい百万夏まつりもよく輪番制にしたらどうかという話があったので、これ

は少し研究というか、いろいろいいところを聞いて、まねできるものがあればまねしたらどうかなと思いました。

それと、わっしょい百万夏まつりについて、戸畑での話で、わっしょい百万夏まつりを見たら戸畑祇園は見に行かなくてもいいやとなってしまうという声を時々聞くんですけど、これも仙台市に聞くと、規模をかなり変えているので、東北絆まつりで見た人には、これの本物を見たいと思ってもらえると言っていたので、そういう流れもぜひまねできたらいいのかなと感じました。

それと、連携することで海外に出ていくこともできているとのことだったので、こういった動きは北九州市であるのか、これだけ確認させてもらってもいいですか。聞いた話では、一つ一つの祭りだったら海外に行くというのは難しくても、6市でいろいろなものをまとめたコンテンツになっているからこそ、海外にPRができるんだということだったんですけど、北九州市でも何かそのような連携はありますか。

○委員長（吉田幸正君） 夏まつり担当課長。

○夏まつり担当課長 わっしょい百万夏まつりで言うと、以前は百万踊りがハワイで交流といったようなことがありますけども、各地の祭りが一斉に集ってというのは今のところ実績はありません。

○委員長（吉田幸正君） 奥村委員。

○委員（奥村直樹君） 分かりました。確かにちょっと横に並べて同じような形の祭りではないから難しいかもしれませんが、そういうのもいいかなと思います。戸畑祇園なんかは既に有名かもしれませんが、せっかくみんなが集まる大きな祭りがいろいろあるという面では、相当絆まつりのやっていることは参考になるんじゃないかと思ったので、よかったら見ていただけたらと思います。

2つ目は、これも多分北九州市でやっていた記憶があるので確認したいんですけど、仙台市は満足度と認知度のマトリックスを作って評価をしていました。例えば牛タンとか、ずんだ餅とかというのは認知度も高く満足度も高いと。これはもう既に完成したコンテンツですが、一方で認知度は低いけど満足度が高いものを掘り起こすという資料がありました。私も過去の産業経済局の委員会の中で見た記憶はあるんですけど、そういう認知度と満足度を掛け合わせたような資料やデータは今まで出たことあったでしょうか。観光地かもしれませんが、お土産とかも含めたところで。

○委員長（吉田幸正君） 観光課長。

○観光課長 もう10年近く前になるんですけども、前回の観光振興プランの作成のときに、一部そういった検討をしたことはございました。今回、仙台市の資料も拝見しましたけども、最近はこういった形での分析はしていないというのが現状でございます。以上でございます。

○委員長（吉田幸正君） 奥村委員。

○委員（奥村直樹君） これがどれくらコストがかかるか分からないんですが、確かに認知度が低くて魅力度が高いというものに焦点を当てて、めり張りをつけて売り込んでいくというのは非常に効果的だなと思ったので、そういった調査が可能であれば、ぜひ検討していただきたいなと思います。

最後に、海外のインバウンドの話のときに、タイと台湾に非常に力を入れているということでした。特になるほどと思ったのが、なぜタイに注目したかという理由が、2006年の時点でライバルが少なかったからという点です。そのように、2023年時点でライバルが少なく、10年くらいかけて成長させていくような視点で海外を見たことはあるか、これもよかったら意見を聞かせてもらっていいですか。

○委員長（吉田幸正君） 観光振興担当課長。

○観光振興担当課長 北九州市としましては、福岡空港から九州に入国する方が8割ということで、そちらに航空便がいろいろ入っておりますので、その国々と連携するという形で考えております。ただ、フィルムコミッションでタイなどと交流があったりとか、いろいろな局で海外と関わりがありますので、そういった視点でもプロモーションを仕掛けているというところがございます。現在、アクションプランをつくっておりますので、そういった視点も取り入れながら考えていきたいと考えております。以上です。

○委員長（吉田幸正君） 奥村委員。

○委員（奥村直樹君） 分かりました。福岡空港はたくさん航路を持っているので、逆にそこがないのがどこなのかとか。タイは親日国であり、2006年からすればかなり経済も成長していて、当時と比べれば落ちる金額も全然違ってきていると思いますので、そういったところもぜひ研究して、そこに目をつけたかみたいなところをぜひ頑張ってくださいと思います。以上です。

○委員長（吉田幸正君） ほかにございましたら。高橋委員。

○委員（高橋都君） 先ほど話がありましたが、東北6県でお祭りを輪番制でやっているということで、私は東北全体でみんなで頑張ろうという絆を感じたんですね。どうしてもライバルというふうに見るのかと思ったんですけど、そうじゃないんだなと思って。やはりその辺のやり方が違うなということと、仙台は東北の入り口という位置にあるのと比べて、北九州市はそうではないという違いも強く感じます。それに、説明していただいた職員の方たちが、もう本当に楽しそうに、うれしそうに、頑張るぞ、やるぞという、北九州市も皆さんそうなんだろうけど、楽しんでいるという感じですね。わくわくさせるような気持ちがこちらに伝わってくるようであって、やっぱりそれも義務感ではなくて、みんなで盛り上げようよという、何かすごく、そういうものを感じました。

それと、すごく先のことまで考えてやっているなと思いました。アンケートを取ったりとか、インバウンドについてもトップセールスもやられているということなんですが、そういう積極

的な取り組み方がすごく勉強になったなと思います。

その中で1つ、空港は海外からの航空便がたくさん来ているということもあるんでしょうけど、インバウンドにかなり力を入れていると感じました。北九州市は、せっかく今後滑走路3,000メートル化にもなるということもあるんですけど、やはりいろいろな小さい都市との行き来ができるような便をつくっていかないと、今後難しいのかなと思います。やはり北九州市に来てもらって、知ってもらおうということの一つのツールとして、空港を利用してもらいたいなと思いました。そこで北九州市にたくさんの人が来てもらえるということで、いろんな便を他都市にも広げていただける、小型の直行便をもう少し増やす方向性を考えてもらえたらいいのかなと感じました。以上です。

○委員長（吉田幸正君） ありがとうございます。ほかにございましたら。世良委員。

○委員（世良俊明君） 今までの話と重なるかもしれませんが、空港に関しては国際線の集積が北九州市よりはるかに多くて大変羨ましいと思ったんですが、先ほどからありましたように、2006年の段階からアジア諸国を視野に入れて取り組んできたということがありましたので、逆に言えば北九州市もアジア路線を含めたこれからの路線誘致の余地があるんだろうと思います。これについて、福岡空港とも連携しつつ、LCCを含めた国際路線の誘致が課題になってくるのではないかと思います。

もう一つは、漫画を活用した町おこしをかなり強力にやられていたんですが、現役の人気作家が仙台との関わりで支援をしているということがあって、これも本市では現役と言われるとどうなのかなということ、いろんな活用する余地があるんだろうなと思いました。現役作家ができるだけ北九州市を盛り上げて活躍していただくというような取組も、もう少し強めることが可能なかもしれないなと思いました。

もう一つはアクセス鉄道ですが、満員でありましたけれども、たった2両でした。沿線人口が増えたことを前提として、空港アクセス鉄道が設置されていると思うんですけども、言うほど順調じゃないのかなということも含めて、経費を抑えていくために僅かな車両しか運行していないんだとすると、このままだとかなり不満が出るのではないかと。我々もぎゅうぎゅう詰めでしたので、これだと普通の方たちは相当不満が出るだろうなと思いました。費用対効果との関係で、アクセス鉄道の課題の側面なのかなという感想を持ちました。以上です。

○委員長（吉田幸正君） 本田委員。

○委員（本田一郎君） 仙台市交流人口ビジネス活性化戦略2024について説明を受けたんですけども、旅行の消費額をいかに大きくするかという視点を重視しているということでした。その中で質の重視ということで、ロングステイとかリピーターとかラグジュアリーですね。それと、やっぱり観光地としての認識を高めてもらわなくてはいけないという中で、魅力度は認知率だから、そこを重要視していくと。その中でやっぱり先ほど奥村委員からも出ましたけれども、本当に牛タンということだけで全国の国民が知っているという状況で、そういったものが

できればいいなというのを感じました。それと4回以上のリピーターの方は消費額が高くなるということですので、やっぱり本市においてもいかにリピーターをつくっていくかという努力をしていかなければいけないと思いました。

それと、夜のコンテンツの強化ということでお伺いしたところ、今専門業者に依頼して調査をかけているとの回答がありましたので、やはり北九州の夜は楽しいんだということも、今後インバウンドですとか観光客に対して発信していかなければいけないのかなとも思いました。

先ほどから出ております東北の絆まつりなんですけれども、6市による輪番制ということで、広域連携を実施することによって、それぞれの市の認知度とかイベントの際の立ち位置の向上を図るとお聞きしております、これも協力するということと競争するということがあって、その6市で協力してやるんですけれども、そこで仙台市をさらに目立たせていくということもおっしゃっていました。本市においても、九州を一つの観光地として面で捉えた場合に、ほかの県との連携も必要ですし、また、そこで北九州市をアピールしていくことも重要なと感じました。以上です。

○委員長（吉田幸正君） ありがとうございます。ほかにございましたら。渡辺徹委員。

○委員（渡辺徹君） 仙台といえば、我々は県よりも仙台市で認知していて、イメージ戦略として、観光というところで、映画にしろインバウンドにしろ漫画にしろ、いろんな形で連携しながら、うまい具合に地域おこしを頑張っていてすごいなと思いました。それで、これは全くの余談ですけど、そのとき雨が降っていて、タクシーに乗ったら運転手の対応が非常に悪くて、それだけで観光客はイメージが違ってくるな、我々も気をつけないといけないなということを実感しました。たった1人の運転手のために乗っていた3人、4人が嫌な思いをするということになりますので、北九州市に来てあんなやったとと言われるとよくないんで、その辺は産業経済局にしっかり頑張っていただけたらと思います。いろんな都市を視察させていただいたことは、ボートレース、競輪にしろ洋上風力にしろ、そういったもののイメージアップを北九州市がどうやっていくか。いまだに北九州市とはどこですかというように、北九州市というのが分からない、九州の上のほうみたいな感じです。福岡というのは皆さんにイメージしてもらえますが、そういったところのイメージアップを産業経済局に総合的にやっていただいて、現在国際映画祭もやっていただいていますけど、そういった一つのイベントがイメージアップにつながるように努力していただいていると思いますが、それが総合力でオール北九州でできるような事業につなげていただきたいと思います。以上です。

○委員長（吉田幸正君） 香月委員。

○委員（香月耕治君） あまりゆっくり座っていなかったんですけど、先ほど空港までの列車がもう超満員で、以前行ったときと比べて隔世の感があるなと感じました。周辺人口が増えたこと、それから商業施設等ができたことが要因だと思いますが、北九州市もやはり軌道系は、交通の利便性を考えても、ダイバート等を考えても、やっぱり検討すべき課題だなと思いました。

そして、全体的に言うと、メディアドームに関しては、やっぱり I R の総合リゾートの知恵を借りる必要があるかなと。地域貢献ということではそういうふうに考えます。先ほど水素の話が出ましたが、コストの問題があるとは思いますが、ドイツなどでは余剰電力は水素に変えています。これは国の政策だと思っていますが、やはり再生可能エネルギーをどう増やしていくかというところに、そういう課題は当然出てくるなと思います。以上です。

○委員長（吉田幸正君） ありがとうございます。渡辺徹委員。

○委員（渡辺徹君） 再生可能エネルギーは、ヨーロッパに行かせていただいて見させてもらって、風があるときはこういうふうに流そう、そしてまた、太陽光があるときは、ヨーロッパ全体で再生可能をいかに生かしていくかというところを努力しながらやっていました。事業一つ一つを見るとペイできるかどうか分かりませんが、今住んでいる我々がこの先、後輩たち、また、自分たちの子供が安全に過ごしていけるかというところもしっかり捉えた中でいろんな政策もやっていただきたい。北九州市が人口減少やいろんな問題がある中でどれだけ持ちこたえられるかというところを総合的に考えて、香月委員が言われたように、やはり全体の事業として考えるのであれば、損得だけじゃなくて、そこのところをしっかりと押さえてやっていただきたいなどに思いました。

○委員長（吉田幸正君） 渡辺修一委員。

○委員（渡辺修一君） 奥村委員が言われたんですけど、タイとの連携で、アウトバウンドにもかなり力を入れているみたいで、タイフェスティバル in 仙台というのを開催しているということをお聞きしました。北九州市も先ほども出ましたフィルムコミッションで、タイの音楽バンドが若戸大橋をバックにプロモーションをつくったりとかしていますので、そこもしっかりアウトバウンドにも力を入れて観光振興につなげていければなと感じました。

また、アニメコンテンツを説明する担当の若い青年が、物すごくアニメに対して情熱を持って説明をしてくださっていたんですね。北九州市もアニメの聖地でもありますので、アニメをすごく愛する市の職員の方が担当になってどんどん進めていただけると、もっともっと盛り上がるんじゃないかなと感じましたので、よろしくお願いします。

○委員長（吉田幸正君） 今何名かから出ました職員の情熱のような話で、うちも決して負けていないと思っていますが、仙台市のアニメ担当の方はもともとそういうことが大好きで、その後少しメールのやり取りをしても、まあ非常に熱い。やっぱり先ほど話のあった1人のタクシー運転手の態度が悪いと、ということの逆で、職員1人の情熱でプラスの面も相当変わることがあるんだろうなと実感したところでもあります。

それで、今回仙台市に行かせてもらったんですが、実は観光地としての仙台の位置を調べたときに、日本で訪問したい土地ランキングは政令市19都市中17位で、頑張らなきゃいけないので、インバウンド、M I C E、漫画、アニメコンテンツを強力にやりますという話では、どんなことやっているんだろうということだったんです。

この観光都市としてのファネル構造調査、マクロミル調べというのが仙台の基準だったんですが、北九州市の観光都市ランキングは国内で何位だと、行政は認識をしているのかを確認させてください。観光課長。

○観光課長 観光都市に関する指標というのはいろいろな出版社ですとかシンクタンクであるとか、そういうところがいろいろ出しておりますので、その全てを把握しているわけではございません。ただ、日本の政令指定都市や県庁所在地、合わせて60ぐらいあるのかなと思うんですけども、そういった中でいくと北九州市のランクとしては、総じて中位、真ん中から真ん中のちょっと下ぐらいという形で認識はしております。まだまだこれから伸び代があるものと思って頑張りたいと思います。以上でございます。

○委員長（吉田幸正君） そういう意味で、仙台市の観光というと今まで何だったかということ、牛タンと笹かまぼことずんだ餅と七夕まつりしかありませんでしたというのが仙台の見解だったんですね。それでいろんなことを掘り起こしましょうと。そう考えると、北九州市にはまだ相当いっぱいあるなという意味では、最近ポテンシャルと言うことが多いですが、十分にあるんだろうと思いました。

その中でアニメの担当の方とお話をしたときも、東北絆まつりにぜひ来てください、来たら絶対七夕まつりに行きたくなりますからということだったんですね。そういう意味では来てくれるきっかけづくりとして、絆まつりというのが相当大きなフックになっていて、同時に北九州市はわっしょい百万夏まつりがありますので、インバウンドばかりではなくて、いろんな町から誘客するときに、わっしょいお祭りのときにぜひ来てくださいというのは、全体としてももう少し大きいフックになっていいかなという気がしました。そこに物すごくたくさん町の人が集まってきてくれて、そこでいいコミュニティーの提供ができて、じゃあ今度戸畑を見に行きましょう、小倉を見に行きましょうというようなことが重要だなと思いました。

それと、仙台市も2泊は難しいというようなこともおっしゃっていて、そのために東北の他都市や宮城県内の地区をきちんとつなごうという、温泉があったりお寺があったりするんですけど、我々ももう少し周りを巻き込んでやる意識が必要かなと思いました。この間下関の方々と飲んだら、北九州市の人たちとも常時いろんな連携をやっているということだったんですが、私たちが何か誘客するときに下関のことまで言っていないなということもありましたので、何かもう少し観光事業についてはエリアで考えるほうが、我々にとっては魅力的なのかなというふうな感想を持ちました。

いずれにしても、アニメをコンテンツと捉えていまして、北九州市では文化企画が担当していると承知してはいますが、これはもう既に産業、また、観光と相当リンクしているということがありますので、行政の担当についても観光と文化企画課との連携をお願いしたいと個人的に申し上げて終わります。

ほか、全体を通して言い忘れたことがありましたら。

では、視察の準備をしていただいた事務局もそうですが、迎えていただいた視察先の方から、全国市議会議長会で北九州市に行ったときはすばらしかったですよという話もたくさん聞きましたし、北九州市へ行ったことがありますという方や、北九州市のほうが上と思ってもらっている方が多かったような印象を持っています。皆さんの頑張りもまた、私たちもしっかりPRしてきましたし、我々も学んできたことをしっかりまた反映できるように努力を続けていきます。それではここで、視察の意見交換会を終了したいと思います。ありがとうございました。

ここで本日の報告に関係する職員を除き、退室を願います。

(執行部入退室)

次に、産業経済局から旧JR九州本社ビルの活用について、港湾空港局から北九州港廃棄物海面処分場整備事業の公共事業再評価について及び響灘西地区廃棄物処分場の受入れ制限についての以上3件について、一括して報告を受けます。門司港レトロ課長。

○門司港レトロ課長 旧JR九州本社ビルの活用につきまして、現行事業者で香港の投資会社であるオデッセイ・アセット・マネジメント・リミテッドと契約を解除することになりましたので、その御報告をさせていただきます。

お手元の資料、旧JR九州本社ビルの活用についてを御参照ください。

まずは、旧JR九州本社ビルについて御説明させていただきます。旧JR九州本社ビルは、石炭をはじめ外国貿易の拠点でありました門司港におきまして、三井物産の門司支店として昭和12年にしゅん工した門司港駅前に立地する建物であります。

戦後の財閥解体に伴いまして、昭和28年に日本国有鉄道、いわゆる国鉄が買収し、門司鉄道管理局庁舎として使用されてきました。その後、国鉄の民営化に伴いまして、JR九州北九州本社として使用され、平成13年にJR九州が本社機能を福岡市に移転した後、老朽化により当該ビルの取り壊しが検討されてきました。しかし、その当方で築68年が経過した門司港の変遷を伝える歴史的な価値の高い建物でございましたので、北九州市とJR九州との間で保存活用に向けた協議を重ねまして、平成17年に市有地との等価交換によりまして、JR九州から土地と建物を取得した経緯がございます。その後、平成29年4月には、日本遺産、関門ノスタルジック海峡の構成文化財として文化庁から認定されております。

続きまして、旧JR九州本社ビル活用事業のこれまでの経緯について御説明させていただきます。

令和元年度のプロポーザル募集におきまして、オデッセイ・アセット・マネジメント・リミテッドが旧JR九州本社ビルの活用事業の事業者として、当時公募に応じた3社の中から選定をされました。令和2年2月にはオデッセイがホテル開発のための特別目的会社、いわゆるSPCとしてMojiko Developments合同会社を設立し、令和3年3月に市との間で市有財産使用貸借契約を締結しました。その後、事業実現に向けて協議を重ねてまいりましたが、市有財産使用貸借契約締結以降、残念ながら現在までの約3年間、修繕工事契約な

ど事業の進捗が見られませんでした。

そのため、事業の進捗が確認できる書類の提出を求める催告通知書をオデッセイ及びS P C に送付しましたところ、オデッセイから、新型コロナウイルス感染症の拡大やウクライナ情勢等の影響による世界的な物価高騰の理由により、事業費が大幅に増加したことから、事業資金の調達の見込みが立たないため、事業を断念する旨の連絡がございました。

事業断念の連絡を受けまして、令和5年12月5日付で市有財産使用貸借契約の解約、及び同ビル活用事業に係る交渉の終了に関する合意書をオデッセイ及びS P C と締結をしまして、当事業に関する交渉が終了したことを確認いたしました。

最後に、旧J R九州本社ビルの活用事業の今後の予定について御説明させていただきます。

旧J R九州本社ビルは、門司港の歴史を伝える日本遺産にも指定された貴重な建築物であることから、建物の外観の保存を条件としまして、建物は貸借または売却、土地は定期で貸し出す契約条件で事業者を再公募したいと考えております。再公募のスケジュールにつきましては、再公募の開始時期が令和6年5月、審査会の開催及び事業者の選定は令和6年11月に行う予定としております。

以上で旧J R九州本社ビルの活用について報告を終わらせていただきます。

○委員長（吉田幸正君） 整備課長。

○整備課長 それでは、北九州港廃棄物海面処分場整備事業の公共事業再評価について御報告いたします。

資料1ページを御覧ください。響灘東地区の廃棄物海面処分場は、平成25年度に公共事業評価を行った上で、国の補助事業として平成26年度に事業着手したものです。その後、事業着手から5年後の平成30年度に1回目の再評価を行い、事業を継続するという方針が了承され、現在まで鋭意工事を進めてまいりました。

今年度は、前回再評価から5年目になりますが、昨年度より残事業費等の精査を行った結果、大幅な事業費の増額や、それに伴い事業期間が延長することが判明しております。これを踏まえ、北九州市公共事業評価システム要綱、また、国土交通省所管事業の再評価実施要綱に基づき、来年度以降の事業を継続するため、2回目となる再評価を令和5年度中に行う必要があるものです。

まず、1、事業概要です。補助事業名は、北九州港廃棄物海面処分場整備事業です。事業箇所は若松区響町二丁目地先、面積は約38ヘクタールとなっております。容量につきましては約457万立米となります。

次に、2、公共事業再評価における事業計画の変更です。平成30年度に実施した前回の公共事業再評価から、事業費と事業期間が変更となります。まず、(1)事業費の増額です。事業費は前回再評価時の255億円から386億円となり、131億円の増額となります。変更後の事業費386億円の内訳は、埋立護岸の整備が355億円、環境施設の整備が31億円です。増額の主な内訳や理由

につきましては、7月20日に御報告させていただいたところですが、増加する額も含めまして改めて資料にお示しをしております。

上から埋立護岸整備の増額に関する内訳になります。①遮水鋼矢板の補強に約41億円、②風浪対策に約10億円、③安全対策等の追加に約7億円、④物価の上昇の影響により約65億円、⑤コスト縮減としてマイナス約5億円で、合計で約118億円の増額となります。

次に、環境施設の増額に関する内訳です。環境施設は廃棄物の投入により汚れた水をきれいにして放流する排水処理施設などです。①建設地変更に伴う残土処理に約4億円、②物価の上昇の影響により約9億円、合計で約13億円の増額となります。

次に、(2)事業期間の延長です。変更前の事業期間は、廃棄物処分場の護岸整備を令和8年度までに、土砂処分場の護岸整備を令和9年度までに行い、事業完了とする予定でした。しかしながら、これまでの説明のとおり、大幅に事業費が増額する見込みとなる一方で、狭い海域で同時に作業できる工事量に限界があることなどを踏まえ、事業期間を令和13年度まで延長することになりました。7月、10月にも御報告させていただいているとおり、事業期間の延長に伴い、現行の廃棄物処分場を令和13年度まで延命させる必要が生じています。このため、市としても苦渋の選択ではありますが、令和6年度から産業廃棄物の受入れを制限する方向で調整をさせていただいているところです。

最後に、3、今後の手続です。まず、今月の26日に公共事業評価に関する検討会議を行います。これは、有識者など外部の方々から事業計画の変更内容を諮るものとなります。その後、令和6年1月から1か月間、パブリックコメントを実施する予定としております。これを踏まえ、3月までに事業計画の変更手続を完了させる予定としています。

なお、2ページ以降の別紙1、15ページ以降の別紙2は、今回の公共事業再評価の資料となっております。詳細につきましてはこちらを御覧いただければと存じます。

以上で報告を終わります。

○委員長（吉田幸正君） 処分場担当課長。

○処分場担当課長 響灘西地区廃棄物処分場の受入れ制限について御報告いたします。

1、これまでの経緯です。7月の委員会では、次期処分場の完成が遅れることに伴い、このままのペースで埋立てした場合、市に処理責任がある一般廃棄物の処理に支障を来すことから、令和6年度から産業廃棄物の受入れを停止すること、緩和措置を検討することを御報告いたしました。これに対して、産業廃棄物の搬入者や業界団体からは、令和6年度からの受入れ停止は急過ぎるので猶予が欲しい、ひびき灘開発が運営する民間処分場に搬入したいといった意見を受けました。そこで、これらの意見に基づく緩和策として、10月の委員会では令和6年度は搬入量を令和2年から令和4年度の最大実績量まで、ただし上限は5,000トンまでに制限して受入れを継続すること、ひびき灘開発に次期処分場が完成するまでの間の受入れを依頼していることを御報告いたしました。

次に、これに対する搬入者や業界団体の新たな意見です。10月の委員会の後、搬入者や業界団体に対して市の緩和策を説明したところ、令和6年度の搬入量の上限を再検討してほしい、次期処分場では、現在と同様、上限を設定せずに受入れしてほしい、リサイクルの研究、設備投資等の補助金創設を検討してほしいといった新たな意見をいただいています。

次に、3、市の対応です。先ほどの新たな意見に対する市の回答です。2ページの別紙1をお開きください。令和6年度の産業廃棄物搬入量の上限は、次期処分場が完成するまでの間、現行処分場で一般廃棄物の処理を継続できる最大限の量です。よって、上限の引上げは一般廃棄物の処理に支障を生じることから困難です。

また、次期処分場での産業廃棄物の受入れは、法律に基づく市の一般廃棄物の処理責任と産業廃棄物の排出者責任、産業廃棄物処理を通じた地域経済の支援の観点、公費で設置した処分場で一般廃棄物を上回る量の産業廃棄物が処理されている現状、このうち発生源が市外のもの約半分を占めている実態などを踏まえて、今後しかるべき時期に決定するとともに、受入れを決定した場合は料金についても改めて検討させていただきます。

補助金の創設検討については、本市としても市内の産業廃棄物処理業界の発展は非常に重要と考えています。いただいた要望を踏まえてどのような支援ができるか、検討を進めてまいります。

1ページにお戻りください。3、(2)ひびき灘開発との再度の協議です。10月の委員会での提案を受け、ひびき灘開発及び処分場の所有者である電源開発と、全ての産業廃棄物の受入れについて改めて協議しました。ひびき灘開発からは、当初から処分場の所有者である電源開発との調整など積極的に協力いただいております、現在受け入れている廃棄物は、次期処分場が完成するまでの間、受入れ可能となる見込みです。ただし、現在受け入れていない一部の廃棄物は跡地利用等の観点から今後も受け入れることはできないとのことでした。

最後に、4、今後の対応です。引き続き各搬入者への周知を図り、来年度から順次受入れ制限を開始するとともに、新たな処分先や再生利用の検討に関する情報提供など、搬入者への支援を行います。また、リサイクルの研究や施設導入等への支援について、関係者との協議を進めてまいります。

以上で報告を終わります。

○委員長（吉田幸正君） ありがとうございます。ただいまの報告に対し、質問、意見をお受けいたします。

なお、当局の答弁の際は補職名をはっきりと述べ、指名を受けた後、簡潔、明確に答弁をお願いいたします。

質問、御意見はございませんか。高橋委員。

○委員（高橋都君） まず、旧J R九州本社ビルの活用ですが、これはもう契約解除の合意書を締結して、令和6年度の5月に再公募を開始するということですが、もう現行の事業者との契

約はないものと思ってよいのでしょうか。

それと、今後の新たな事業者への周知ですけれども、来年の5月ですから、今後どういう活用をするという活用の制限というか、そういったものがあるのか教えてください。

それと、響灘の処分場ですが、ひびき灘開発との再協議の中で、これまで受け入れている廃棄物はそのまま受け入れるが、現在受け入れていない廃棄物の一部は土地利用の観点から受け入れることができないということですが、これに関して、現在受け入れてもらっていない事業者から今後どうするのかということに対して、その点のお考えがあるのかということと、今後の対応で、情報提供など搬入者への支援を行うということですが、その情報は新たなものがある、現在随時提供が行われているのか、教えてください。

○委員長（吉田幸正君） 門司港レトロ課長。

○門司港レトロ課長 まず、旧JR九州本社ビルの件ですが、令和6年5月に再公募したときに、現行のオデッセイが参加資格があるのかどうかという御質問につきましては、これから公募要項を作成していくこととなります。以前その件について市の顧問弁護士に相談したこともあるんですが、仮にオデッセイにもう一回ここで手を挙げる資格を与えたとしても、審査員の選考によって最終的な評価が下されますので、前回5名の審査員で評価をしたわけですけども、公募条件で特に締め出さなくても、一度今回のような状況に陥った会社が選ばれる可能性は少ないと。我々もその方向で今検討をしております。

今後の周知についてですが、令和6年5月の再公募までに約半年ほどありますが、再公募で待つだけではなく、関東圏の例えばゼネコンの開発部門などに働きかけをしまして、新たな事業者を誘致する、引っ張ってくるといいますか、そういった活動をしながら周知に努めてまいりたいと思っています。正確な意味での公募の開始としての周知としては、来年の5月ということになります。

その間の活用の制限につきましては、現行の建物は非常に古いため、何か落下してけがとかしないように仮囲いをするなど、新たな事業者が見つかるまではそういう形で安全対策に努めてまいります。以上です。

○委員長（吉田幸正君） 処分場担当課長。

○処分場担当課長 ひびき灘開発が受け入れない廃棄物に関する御質問についてお答えいたします。

市内には、ひびき灘開発以外に民間の最終処分場が3か所ございます。こちらの3か所の処分場に対して、市内中小企業が排出する産業廃棄物の受入れ依頼を行ったところ、受入れに向けて準備をしているところもあると聞いております。また、既に市外の処分場なんですけど、受入れ契約をしている搬入者もいるということもございます。先ほどの市内の民間の処分場の受入れ状況等、また情報が入りましたら、こういったものを各搬入者に提供したいと思っております。

また、搬入者の契約状況などについても今後も注視していきたいと思っております。以上でございます。

○委員長（吉田幸正君） 高橋委員。

○委員（高橋都君） 旧JR九州本社ビルについて、5名の審査員ということなんですが、この審査員は今後も同じなんですか。今回コロナもありましたけど、オデッセイを選んだということもありますので、今後審査員のメンバーが替わらないのかということが少し気になりますけれども。

○委員長（吉田幸正君） 門司港レトロ課長。

○門司港レトロ課長 前回のプロポーザルの審査のときは、令和元年になるんですけども、そのときは観光振興であるとか建築工事、地域振興、町並み景観、経営財務という5つの専門家の方に審査員をしていただきました。来年公募するときの審査員についてはまだ未定ですけども、人選は変わる可能性というのは十分あると考えております。また、そのときに適宜適切な人材に当たっていききたいと考えております。

○委員長（吉田幸正君） 高橋委員。

○委員（高橋都君） メンバーは替わるということですが、コロナということも原因の一つかなと思うんですけど、この企業を選んだという背景があると思いますので、今後はもう少し慎重に選ぶ必要もあると思いましたので、お聞きしました。

それと、先ほどの廃棄物の受入れですが、ほかに市内に3か所あるということで、それはこちらのほうと協議ができればいいかなということと、あと情報はやっぱり逐一搬入者に提供していただきたいということと、あと搬入支援としてリサイクル事業の再構築及びリサイクルの取組のための補助金の創設というのは、まだ検討ということで実際には考えておられないということですか。

○委員長（吉田幸正君） 処分場担当課長。

○処分場担当課長 リサイクルの件は、具体的にはまだどのようなものができるかということ、協会など関係の方に意見をいただきながら、内容については今後検討していきたいと思っております。以上でございます。

○委員長（吉田幸正君） 高橋委員。

○委員（高橋都君） 分かりました。それと、別の民間の処分場と今までの処分場というのは、金額は変わらないんですか。

○委員長（吉田幸正君） 処分場担当課長。

○処分場担当課長 民間処分場の中のひびき灘開発については、金額も公表されております。こちらについては西地区の処分場に比べると大体1トン当たり400円の差がございます、少し高くなります。その他の民間処分場の金額については、品目とか量によっても企業同士でお話しさせていただいて決めるようなので、正確な数字は我々でも分からないというところでございます。

以上でございます。

○委員長（吉田幸正君） 高橋委員。

○委員（高橋都君） 市の施設が使えないということもありますので、その辺の補助とか何か支援ができればと思いますので、検討していただきたいということを要望しておきます。以上です。

○委員長（吉田幸正君） ほかにございましたら。奥村委員。

○委員（奥村直樹君） 2点お伺いします。

1つは、旧J R九州本社ビルなんですけど、このプロポーザルの契約のときはこういうふう
に途中で断念したときは、何か要件とかペナルティーのようなものはあったのかということと、
一般的にはあるのか、教えていただけたらと思います。

もう一つは、処分場の件なんですけど、これも以前から聞いていたんですけど、費用の増額の
内訳の中で、コスト削減によりマイナス5億円とあるんですけど、これを少し詳しく、どのよ
うにしてマイナス5億円ができたのかということをお教えいただけますか。以上です。

○委員長（吉田幸正君） 門司港レトロ課長。

○門司港レトロ課長 プロポーザルの際に途中で断念したときのペナルティーの記載があっ
たかということですけども、令和元年8月に募集を開始したわけですけども、その当時の資料
の中では特にペナルティーというようなことの記載はありません。その当時、広く事業者を集
めたいという中で、そういったものは記載をしていなかったものと考えております。

一般的にあるのかということですけども、全てを承知しているわけではないんですけど、ペナ
ルティーを設けると手が挙げらなくなるリスクを加味する必要があるので、あまり一般的には
多くはないのかなとは認識をしております。ただ、今回のことが次回以降起きないように、何
かしら例えば募集要項の中であるのか、もしくはその後個別に契約する契約の中にするのか、
そのような防護策は検討する余地があるとは考えております。以上です。

○委員長（吉田幸正君） 整備課長。

○整備課長 コスト削減の件でお答えいたします。

お手元の資料11ページに書いていますが、護岸は非常に多くの石材を用いて整備します。石
材の価格が昨今の物価上昇で非常に高くなっている中で、石材を一部別のものに置き換えれば
安くできるということを考えまして、石材から流用土に変更するということがコスト削減をし
たいというのが1つ、それから、既存の護岸がございます。もともと海上から工事することを
考えておったんですけども、一部陸上からできないかということを検討しまして、併せてコス
ト削減し、合計で5億円ということ考えております。以上でございます。

○委員長（吉田幸正君） 奥村委員。

○委員（奥村直樹君） まず、旧J R九州本社ビルですけど、ペナルティーのような内容を加え
ることを検討するということが、建物が古く、残していくということであれば、やっぱり1年、

2年と何もしないということは傷むわけなので、やはり次のときはこういったことがないようにぜひ工夫していただきたいと思います。確かに募集の足かせになってはいけないと思うんですけど、そこを工夫していただいて、次はないようにぜひ検討していただきたいと思います。

処分場のコスト削減の件ですけれども、今回このように高くなってしまったので、多分皆さんで相当知恵を絞ってこの5億円を削減されたと思いますので、それは非常にいいことだとは思いますが、逆に言うと今後はもうこの流用土を使うやり方が基本になるのかということ、あるいは安全面などデメリットは特にはないのかということを一応念のため確認したいんですけど、いかがでしょうか。

○委員長（吉田幸正君） 整備課長。

○整備課長 これがスタンダードになるかと言われると、ケース・バイ・ケースだとは思いますが、デメリットは特にはないと思っております。以上でございます。

○委員長（吉田幸正君） 奥村委員。

○委員（奥村直樹君） デメリットがないんだったら、やっぱりこれで5億円変わるんだったら、もう当然今後はこっちでいいのかなと感じたもので、また次にこれから計画するときは、ぜひこの知恵を使っただけならいいのかと思ったものですから、よろしくお願いします。終わります。

○委員長（吉田幸正君） ほかにございましたら。渡辺徹委員。

○委員（渡辺徹君） 旧JR九州本社ビルと処分場なんですけど、特にまずJRと名前がついた途端に、いつもレトロ地区では運がないのか、JRの本社移転もあったし、また、このビルだけじゃなくて今遺構も出てきて、何か門司区で進めるのに全て足かせになっているような気がします。個人的意見ですけど、ああいったものが出てきて、また複合施設が遅れるというのは非常に残念ではないですか。今回のこのビルのこともそうなんですけど、産業経済局には相当いつも頑張ってレトロの事業もやっていただいているんですけど、やはりこれは見えていたんじゃないかと。私は途中でこのまま大丈夫だろうかということは何回か聞いたと思うんですけど、その中で大丈夫ですと。今度は資金の調達がうまくいかないでということですけど、和布刈の上のホテルも結局は駄目になってしまって、こういったホテル誘致や事業がうまくいかないことが続いていますけど、門司港地域は宿泊施設が足りないということで計画はされていますので、しっかりやってもらいたいと思います。今回こういう結果で地元の間人としては大変残念ですけど、これを教訓に、知恵を使ってしっかり各局連携していただいて、局長は物すごくアイデアもあるしすばらしい方ですので、期待しております。ただ、こういうことが二度とないことをぜひお願いしたいと思います。これはもう意見でいいです。

処分場に関しては、これは空港、港湾だけではなくて、環境にも関わってくることで、特にイメージダウンがすごいと思います。業界自体がいろんなことでこういうふうにイメージをつくり上げてくれて、業界全体でうまい具合にまとめてやってきてもらっています。5億円削減

したというのは大変素晴らしいことで、努力は大変感謝するんですけど、工期をもう少し削減できないのか。いろいろな技術も日進月歩進んでいるということですので、そしてまた、こういったお金が131億円ですか、追加されるということです。それはそれで今の御時世ですからしょうがないんですが、納期自体が遅れるというのが、私はもう少しいろんな工法を考えてできるのではないかと思うんですけど、その辺どうなんでしょうか。

○委員長（吉田幸正君） 整備課長。

○整備課長 先ほどコスト削減の話もあって、現状においては今のところ5億円削減できるといって考えておりますけども、現在もさらなるコスト削減ができないかということは今検討しております。ちょっとお時間をいただいておりますけども、できるだけ事業費の増を抑えて、そういった形で完成時期をできるだけ前倒しにしたいと考えております。以上でございます。

○委員長（吉田幸正君） 渡辺徹委員。

○委員（渡辺徹君） 今は北九州市で一番花形の部分が港湾空港局と産業経済局の皆さんですよ。洋上風力にしる北九州空港にしる物流拠点にしる、本当に北九州市のエンジンだと思います。そういった優秀な人材が集積している港湾空港局ですから、皆さんで知恵を出し合って、一年でも早く完成させてほしいと思います。廃棄物というのは地域イメージでは一番大切なことで、そこを環境局が一生懸命頑張って力を入れてやってきたことが全て無駄になってしまうということはないとは思いますが、イメージ的に大変厳しくなります。業界も極力行政がやっていることに合わせていろんな形で努力はしていただいておりますけど、やっぱり我々のほうもその辺はしっかり応えていかないといけないと思います。これは我々の生活の根幹でもありますので、ぜひその辺は御努力いただいて、環境の方も来られていますので、処分は処分でまたしっかり手だてしていただいて。制限だけじゃなくて、先ほど高橋委員が言ったように、少し補助金ならこういった形で公平に出そうとか工夫していただいて、努力いただきたいと思います。以上です。

○委員長（吉田幸正君） 本田委員。

○委員（本田一郎君） 重複することもあると思いますが、私から2点お尋ねします。1点目は処分場の件について、市外のを半分処分しているということですが、やはり価格が安いから市外から来ていると思います。市内びいきじゃないですけども、価格を今検討されているのであれば、そこは市内と市外で変化をつけてもいいのではないかと、その辺の見解を1点お伺いします。2点目は旧JR本社ビルの活用事業について、また公募を進めるということだと思いますけれども、この審査員というのは何を審査するのか教えてください。

○委員長（吉田幸正君） 処分場担当課長。

○処分場担当課長 処分場の料金の件でございますが、市内、市外を考えますと、現在市内の中小企業が市外ごみを中間処理して処分場に持ってきているという事例があるんですけど、新しい処分場においては、こういった現実も考えまして、市外ごみの受入れとか、あと価格につい

ては新しい処分場の建設費、維持管理費とか、あと市内の世間の一般的な状況、他都市の状況、市場の状況などを総合的に判断しまして、価格については検討していきたいと思っております。以上でございます。

○委員長（吉田幸正君） 門司港レトロ課長。

○門司港レトロ課長 今後の再公募の際の審査員の審査項目についてお答えします。

審査員は、先ほど申しあげました5名の専門家をまた今後も集めたいと思っているんですけども、評価の項目としましては、これは前回のときになりますけども、開発の理念、基本方針がまず1つございます。あとは施設計画としまして、例えばユニバーサルデザインであるとかバリアフリーに対応できているとか、あとは門司港レトロ中心地区及びその周辺に期待する波及効果がどの程度あるのか、そういったものが内容の評価としまして、100点満点のうち大体50点ぐらいの配点になります。それ以外にも確実性の評価としまして、財政基盤であるとか経験、実績であるとか、あと事業の実現性とか、そういったものが40点ほどで、あとは総合評価という観点になります。今後また公募条件を詰めていきますけども、こういった視点が組み込まれてくると想定をしております。以上です。

○委員長（吉田幸正君） 本田委員。

○委員（本田一郎君） ありがとうございます。処分場の件に関しましては、やはり今回もかなりの費用がかかると思います。補正予算もついておりますので、適正価格でぜひ実施していただきたいのと、市内、市外は本当に差をつけてもいいのかなと私は思いますので、要望します。

それから、審査員が何をやるかということなんですが、門司港のその場所に例えばホテルを建てるとしても、やはり事業計画どおりにいかないことには、多分来てくれるところもないと思います。それに対するインセンティブも必要だと思いますし、ホテル業でもいろいろすみ分けができてくると思いますので、ホテル協議会等とも協議をしていただいたりとか、そういったことも進めていただくことを要望して、私からは以上でございます。

○委員長（吉田幸正君） 香月委員。

○委員（香月耕治君） 旧JR本社ビルの件について、3年間も放置されたということは、重く受け取らなくてはならないと思っています。これは契約のときに、いつ頃完成するというのも計画の中に入っていると思います。当然いろいろな環境の変化で遅れる場合があるので、その辺は本市と事業者が十分に話し合っ、再契約するような形のコミュニケーションをとる必要が私はあると思います。当初の計画がずれ込むということであれば、再契約というか、十分にまた契約上のことを話し合うと。ペナルティーがあつてしかるべきだと思っていますが、時間的ロスということで3年間は極めて大きいと思っています。

それから、廃棄物の件に関して、行政として、事業系廃棄物の受入れは、北九州市の静脈産業として大きな位置を占めていると思っています。今回も計画は大幅にずれ込んだということで、その対応ができないということに関して、北九州市の事業系廃棄物に対する取組、その姿

勢についてお伺いしたいと思います。

○委員長（吉田幸正君） 門司港レトロ課長。

○門司港レトロ課長 まず最初に、委員御指摘いただきました今回の時間的ロスについて、令和元年から起算しますと約4年になりますので、これは非常に大きな時間的ロスを生じさせたなということで、反省も含めて重く受け止めております。我々としても契約がずっと継続されて履行できるような形で、オデッセイと協議を進めてまいりました。香港の投資会社といいますが、東京に支店がありまして、日本人の方と大体月に1回以上はウェブであったり対面であったり協議を進めるなどコミュニケーションは取ってきました。事業計画書とそれに伴う金融機関からの融資ないしは出資の証明書の提出について、再三再四促したんですけど、なかなか出てこない状況が続きまして、このままだとさらにまた何も動かない時期が長くなるのではないかということで、残念な判断ですけども、今回の結論に至った次第であります。

今回のことを重く受け止めまして、次回再公募するときは、公募期間もいろんな事業者にヒアリングをしまして、いろいろ検討するに当たって半年間は必要であるというような希望も聞いていますので、その間にポテンシャルや可能性のある企業には声かけも積極的に行ってまいりたいと思っています。そういう形で、2度目の再公募でまた地元から残念な声が上がらないように取り組んでまいりたいと思っています。以上です。

○委員長（吉田幸正君） 処分場担当課長。

○処分場担当課長 産業廃棄物の受入れでございますが、やはり中小企業の活動を支えるということで大変重要なものがございます。また、廃棄物処分場においても最後のセーフティーネットということで、非常に重要な施設だと我々も認識しております。これまで北九州市は切れ目なく廃棄物処分場を準備して、皆様の企業活動の支えになっておったところではございますが、今回こういう事態になりまして、大変我々としても非常に重く受け止めております。今後はこういうことがないように、十分に計画していくことが必要だと思っております。以上でございます。

○委員長（吉田幸正君） 香月委員。

○委員（香月耕治君） 廃棄物に関しては、事業として採算性というか、埋立てにばく大な費用がかかります。受け入れるということで、採算性としてはどのように結果が出ていますか。

○委員長（吉田幸正君） 処分場担当課長。

○処分場担当課長 廃棄物のうち一般廃棄物と産業廃棄物を我々の処分場では埋め立てるんですけど、産業廃棄物の受入れの料金については、費用との均衡を取るといいますか、バランスを取るような形で料金の設定を考えております。以上でございます。

○委員長（吉田幸正君） 香月委員。

○委員（香月耕治君） 先ほども料金の問題が出ましたが、その点は産業としての考え方でしょうか。成り立つようにと。また、産業廃棄物の処理というのは、ある意味環境にも関わるわけで、

今後は国の助成なども考えていかななくてはならない事業ではないかと思っています。

それから、J Rのホテルの件は、事業者がアバウトな形で申し込んでもらっては困るわけで、しっかりとその辺を詰めるところは詰めると。いろんな形で企業を誘致するというを含めて、かなりリスクもあるということで、その辺の備えというか、準備しておく必要があると、私はそう思っています。以上です。

○委員長（吉田幸正君） ほかにありましたら。

時間になりましたけど、私から1つだけ要望させてもらってよろしいですか。

ここで、副委員長と交代します。

（委員長と副委員長が交代）

○副委員長（渡辺修一君） 吉田委員。

○委員（吉田幸正君） 要望だけさせていただきます。

まず、プロポーザルで申し込まれたときに、ちょっと物価が上がったのでやめときます、しようがないですねという状況はやっぱりよくないと思います。これについては、土地を売るにしても指定管理にしても、その内容どおりでなかったことに対して、あるいは応募するときの計画が事実に基づいていなかった場合に対しても、やっぱりそこは適正に判断するような、市全体の規制づくりが必要だという気がしています。結果、レトロの開発が遅れたということは事実ですけど、悪意を持って取りあえず申し込んで、後で考えるということではまずいと思いますので、そこは全体として取り組んでいただくことを要望としておきます。

それとあわせて、今回の旧J R本社ビルの場所ですけども、このままだと再来年度ぐらいまで現状のまま、つまり令和元年ぐらいから今のまま、まるで廃きよのように見えるのが門司港の看板の場所になっているわけでありまして。それについて今オデッセイに言うことができないという状況になっていると拝察しますので、観光客が日本中、世界中から来るときに、何だ空き家かよというような状況にはならないような、市による景観的な配慮について要望しておきます。

それと、最後に処分場でありますけども、大変大きな市民の税金を使うわけでありまして。これについては速やかにとと思いますが、市外からの産業廃棄物の受入れが相当増えているということになると、我々としては市外、市内の状況を分けて、市外からの産業廃棄物の搬入を希望される方についてはそれ相応の負担をお願いするべきだと要望して、終わります。

○副委員長（渡辺修一君） 委員長と交代します。

（副委員長と委員長が交代）

○委員長（吉田幸正君） ほかになければ、本日は以上で閉会いたします。

経済港湾委員会	委員長	吉田幸正	印
	副委員長	渡辺修一	印